

無想録十一 腹

私は常に腹が悪いので、たまさかに腹のいい時のご恩がわかる。

肉体の腹は医師にかかれば、徹底的に治りもするが、人間の腹の悪い——腹の黒い——のは何で治せばいいか。

胃弱？の人、自動車にて嘔吐する。側で見ても気の毒である。

車中の嘔吐は、車になれることによつて治りもする。

しかし聞く真理も食らつた名言も記憶した尊き教えも、一向受け付けぬ邪見の胃病、神経病は何によつて治すべきか。

不屈の人——大いに屈する人を怖れよ。ピンと撥ね返す力が強いからだ。いかに剛毅に見えても、その言動に余裕と味のない人は、ともに大事を成すに足りない。悪罵を平然と受け流す人が一番底気味悪いものだ。——伊藤博文——
雑誌一冊五十銭、これだけ買つて安いもの。

言動に余裕と味のない人、腹の小さい人のことである。

悪罵を平然と受け流す人、その底気味の悪い人、大事を成就する腹の太い人である。

牛車に向かう蠅螂……カマキリのためには、天地一番の大事でも、牛にとつては問題ではない。笑うにたえたるはカマキリの斧、しかしてカマキリの斧を、天地一番の大事とするに至つては、相手もまたカマキリの類を出でない。

腹の小さき男、それを求める女なし。

蚤に食われたら死にそうな小さい魂の男、女ならずとも求めぬが当然である。彼は暗黒界の大王である。

怒るもよし。さらりと流す人は気持がよい。

三年越しの鬱憤、何もできないのがあたりまえだ。それを背負っているだけで一荷ある。

悪いとわかればきつぱりとあやまる。男の中の男一匹だ。

三等汽車の中にやつと席を求めてよむ——

「婦人公論」が二ヶ月にわたつての光明団大攻撃、ずいぶん全国に徹底した。

あれならと思う△△高等女学校長の僧侶、何県の大家△△氏、自称学者の○○氏と、何人もの高僧方が、光明団の念入りの攻撃、琵琶歌「北満の嵐」の名文句ではないが、「前門は鉄火の垣、後門は魔風火をよび……」の勇壮ぶりだ。

だが、これほどのご丁寧な、大がかりのお取り上げを受けるほどの私だろうか、ちよつと面食らってしまった。まだまだとても大勉強せねば、みなさまのご期待には添われない。宗教を撲滅したいお方と、あるいは、あの杉山さんが書いた何とか寺のご住職のようなお方とのお気には入るまいが、いよいよ大乘菩薩道を真向から……奮戦さして頂きましょう。

景気のいい時に、毎晩芸者買いに出かけた大尽が、この不景気に、しばしば日本刀に手をかける。腹の太い男は、家庭では威張らぬものなり。

大胆細行……この人ならば、草の庵を三度たたいても、出馬を願うべきもの、諸葛孔明でなくても英雄君子聖者、偉人みなしかりである。

大胆にして細行なければ、千丈の堤を時に蟻の穴より壊し、細行のみにして大胆なければ、大事をとにもするに足らず。

相模太郎の肝、堵のごとく決して十万の元兵全滅し、腰ぬけ武士、瓢箪を斬つて、幽霊を平げたるごとく吹聴に及ぶ。

聖者の腹はこれを測ることを許されぬ。

罪の裁断(他人へ)と、善の賞讃(自己への)とを、所有しなかつたのが彼である。2

悪逆にして腹の小さき者は、罪の裁断をもつて人に復讐し、聖者は大愛をもつて復讐する。

凡人は仇を感じれば、肉体の上に復讐の刃をむけ、聖者は大愛によつて懺悔救済を与える。

凡人は、凡人の称讃を自ら求め、聖者は凡人の称讃よりも神の声を尊重する。

悪逆の刃を揮うは肝小さきがゆえである。

悪逆の刃をおそれ逃げるも腹小さきがためである。

人を許す太き腹は、己を知ることによつてできはじめ、はつきりとした理想を持つことによつて忍の徳に培われ、百戦練磨、きたえられることによつて大成する。

不動、山のごとき人格に至つては、金剛信の発露のみ。

腹太き水流れの土左衛門、たたいても反応なし。

生きているがゆえに痛くもあれば、かゆくもある。偉人聖者もそれである。

要はただ、たたかれて何と鳴つたかが問題である。

己を知らざる者は、時に海山の恩恵をも、相手の一の過失によつて葬ってしまう。親において、長者において、師において。

士は己を知る者のために死す。

腹をたたけ、腹はさまざま痛棒によつてたたかれて太る。
何でも食え。何でも食える時、腹は健全にして太った時である。